

す。虫のこゑのかぎりをつくしてもながき夜あかすふるなみだかな

〔源氏物語三十八〕秋比にしのわた殿のまへのながのへいの東のきはををしなべて野につくら

せ給へり略。中げにこゑく聞えたるなかにす。むしのふり出たる程はなやかにおかし秋の

虫のこゑいづれとなき中に松むしのなんすぐれたると中宮のはるけき野べを分ていとわ

ざとたづねとりつはなたせ給へるしるくなきつふるこそすくなかなれ名にはたがひて

命の程はかなきむしにぞあるべき心にまかせて人きかぬおくやまはるけき野のまつばらに

こゑおしまぬもいとへだて心あるむしになん有けるす。虫はこゝろやすくいまめいたるこ

そらうたけれなどのたまへば宮

大方の秋をばうしとしりにしをふりすてがたきす。虫の聲と忍びやかにの給ふいとなま

めいてあてにおほどか也いかにとかやいで思の外なる御ことにこそとて

心もて草のやどりをいとへ共猶す。虫の聲ぞふりせぬなど聞え給てきんの御こと召てめ

づらしくひき給略。中これかれ上達部などもまいり給へりむしのねのさだめをし給て御こと

どもの聲々かきあはせておもしろき程に月みる宵のいつとても物哀ならぬをりはなき中に

こよひのあらたなる月の色にはげになをわが世のほかまでこそよろづ思ながさる略。中こ

よひはす。むしのえんにてあかしてんと覺しのたまふ

〔後拾遺和歌集四〕す。むしのこゑをきてよめる

とやかへりわが手ならしはし鷹のくるときこゆるす。虫の聲

〔易林本節用集久〕變蟲クフハムシ

〔和漢三才圖會五十三〕鈍蟲クフハムシ音標 變蟲 俗字 正字未考

按此蟲莎雞之類翅青腹黄色前脚長疾走跳每出入於穴故多難獲秋鳴聲似馬鈍音因以名之蓋松

變蟲